

自立したクラブづくりにおける

—総合型地域スポーツクラブ全国協議会(S C全国ネットワーク)—

1. 身の丈に合ったクラブ

全国に3,000を超える総合型クラブが生まれ、活動をしています。総合型クラブの生い立ちや活動内容は千差万別です。会員数が数十名から数千名のクラブ、年間予算も数十万円から数億円のクラブとまちまちです。

今後、総合型クラブは二極化が進んでいくように思われます。その要因として、職員を雇用するかどうかということが大きな分岐点となると思います。ひとつは会費収入を基本に運営をするクラブ、もうひとつは指定管理等の参入による収入確保をしていくクラブです。

会員数が少なく年間予算も少ないクラブでも立派に自立したクラブもあります。

そこには、クラブとしての方向性をしっかり持ち、「身の丈に合ったクラブ」づくりがおこなわれているからだと思います。まさに、ここが大切だと思います。

2. クラブは地域づくり

クラブの運営は、とすればクラブ内の活動が中心となりがちです。クラブの活動が活発に行われることは言うまでもありませんが、クラブ外の活動にも目を向けていかないと、クラブの活動意義が薄れてきます。クラブは地域あつてのクラブだからです。

そして、地域に役に立つクラブでなければいけません。あるクラブでは、保育園、幼稚園、小・中学校のグラウンドの芝生化を、総合型クラブが地域住民と共におこなっているクラブもあります。

クラブは地域と一心同体、地域と共に歩んでいき、「この地域にクラブがなければ」と思われるクラブになるようしないとクラブの存在意義がなくなります。

クラブづくり、クラブ運営はまさしく「地域づくり」そのものです。

3. ネットワークの大切さ

クラブ運営にとってお金、人、物、情報、ネットワークの5つがキーワードだと思います。クラブ運営や活動も、とすれば内向きになりがちです。「井の中の蛙」ではいけません。他クラブとの連携やネットワークの構築は、クラブにとって重要な要素です。

全国協議会の設立も、こうした考えが根底にあります。皆さんのクラブも都道府県協議会に参加し他クラブのいい情報をしっかりもらい、自分たちのクラブの運営に役立ててほしいと思います。いい情報は待っていても、中々自分のところにはきません。自分から求めてこそ情報を手に入れること出来ます。

また小さなエリア（車で30分圏域くらいのエリア）でのネットワーク化もおこなえば、スポーツ用具の貸し借り等も出来て便利です。

1クラブだけでクラブの運営をおこなっても限りがあります。お隣のクラブや先進クラブのいいところを拝借して、クラブの運営に大いに役立てようではありませんか。

ネットワークの持つ力は、大きなものがあります。各クラブでしっかりとしたネットワークを築こうではありませんか。